

# オレンジ新聞



平成31年3月発行  
発行元：茨木市

## 認知症にやさしい街へ 茨木市の商店会も協力



茨木市認知症地域支援推進員（医療系） 田窪 美由記

私たちの身近な場所にある商店会は、地域に住む人が集まる交流の場にもなっています。挨拶や笑い声が飛び交い、店の前を通ると商店の方があたたかく声をかけてくださいます。

認知症になっても安心して暮らせる街への一歩として、茨木市商業団体連合会※に協力いただき、「認知症にやさしい街づくり」を推進する認知症地域支援推進員が各商店へ訪問をして認知症の相談窓口を案内させていただきました。

※茨木市商業団体連合会とは、茨木市内にある12の商店街、商店会がつなぐ「会費商店」の連絡協調や親睦を深め、各商業者の向上、商店街の健全な発展をはかることにより、経済活動の促進と市民生活の安定に寄与することを目的としています。



### 商店会での あたたかい見守り

「困っている人がいれば様子をみて声をかけています」「商品の説明も分かりやすいように短い文章で説明したり、メモに書いて渡します」「同じ商店会内に介護事業所があるので、対応の仕方が分からなければ相談をしています」と商店の方々は話されています。日頃訪れる先でちょっとした声かけや見守りがあると、認知症の人が安心して出かけることができます。

「困っている人がいれば様子をみて声をかけています」「商品の説明も分かりやすいように短い文章で説明したり、メモに書いて渡します」「同じ商店会内に介護事業所があるので、対応の仕方が分からなければ相談をしています」と商店の方々は話されています。日頃訪れる先でちょっとした声かけや見守りがあると、認知症の人が安心して出かけることができます。



認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの一助として、商店の方々も私たちの暮らしの中で目に触れるよう、相談先のチラシの掲示やミニのぼりを店頭に置いてくださいました。地域で認知症への理解が浸透しているのを感じます。

### 認知症 オレンジダイヤル

ココロ 晴れる  
☎ 0120-556-806

(医療法人恒昭会 藍野病院内)

受付時間 月～金曜日 午前9時～午後5時  
(土日・祝日・年末年始12月29日～1月3日除く)

認知症地域支援推進員(医療系)が対応します。

メールフォームからも相談できます。

☑ 茨木市 認知症総合支援事業 検索

# 地域で育む見守る目

## 広がる徘徊模擬訓練

徘徊者の行方不明時の早期発見を目指す。地域で認知症徘徊模擬訓練が実施されています。地域での徘徊行動を想定して、どのように声をかけたらよいのか、どこへ連絡すればよいのか、訓練を通じて学びます。平成30年11月に福井地区福井小学校区セーフティネットと中条地区(中条地区民生委員会)で開催されました。参加者は民生委員、福祉委員、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、地域の支援機関の方々などで

す。搜索前に認知症の方への対応方法についてミニ講座を受けます。受講後にグループに分かれ搜索をしました。反省会では「声をかけるタイミングが難しい」「一人で対応するとなると訓練通りに出来るか不安」と戸惑いの意見が聞かれる一方、「実践的な学びとなった」「継続して訓練を開催してもらいたい」と地域での見守りの大切さを改めて感じたとの感想がありました。福祉用具貸与事業所の方から、早期発見に役立つGPS端末や人感センサーの紹介もありまし



### 行方不明者の早期発見へ 茨木童子見守りシール

認知症等により徘徊のおそれのある方に、洋服やかばんなどに貼り付けられる「茨木童子見守りシール」を配布しています。行方不明となったときに発見者がシールに印刷されているQRコードを読み取ると、最寄りの警察署が緊急連絡先を把握している地域包括支援センターまたは茨木市役所代表番号へ連絡いただくよう表示されます。利用には申込が必要です。



茨木童子見守りシール

問い合わせは相談支援課 ☎072-622-8121 (代表) へ。

た。茨木市では以前より別の地域でも訓練が開催されており、自地域で認知症の方が安心して暮らせるまちづくりの取り組みとして、徐々に広がりつつあります。

いばらき

オレンジかふえ



茨木市健康福祉部 相談支援課相談二係 係長 中村 ゆかり

認知症になり、不安な気持ちがいつぱいで、外出の機会が減ると、自宅にこもりがちになり、身体やこころの元気がなくなるという問題が起こってきます。

そんな時、認知症であっても気兼ねなく出かけられるところがあれば…。

今、必要とされているのが、「認知症カフェ」です。茨木市では、「いばらきオレンジかふえ(認知症カフェ)」という名前前で、お茶を飲みながら、楽しくおしゃべりしたり、困ったことを相談できる、認知症の人とその家族、地域住民の誰もが、気軽に集う「憩える場」を、地域の方にご協力いただき開設しています。

いばらきオレンジかふえは、認知症になっても住み慣れた地域で、安心して、その人の意志が尊重され、その人らしい生活が継続できるように、また認知症状の進行を防ぎ、家族の介護負担の軽減、地域での認知症啓発といった目的のもと実施しています。

皆さまぜひ、いばらきオレンジかふえに、気軽にお立ち寄りください。

平成30年10月27日(土) 市民公開講座

# はつらつ長寿をめざして

## はつらつ長寿のための

### 『眼』のお話し



医療法人恒昭会 藍野病院  
眼科部長  
福原 雅之

年齢と共にかすんできた、近くが見えにくい等の自覚症状は皆さんに起こる事です。

しかしながら、年齢の変化で大丈夫と思っても、その症状の中に視力を脅かすような眼の病気のサインが隠れている事があります。白内障はかすみや視力の低下などの症状のほかに、なんとなく眩しいといった症状を伴う場合があります。緑内障に関しては、初期の段階では自覚症状に乏しく、早期発見のためには、検診などの機会を利用して頂く事が有用です。また、最近増加傾向にある黄斑変性症

でも、最初の自覚症状は少し物が歪んで見えるといった軽微な物の場合があります。変化を早期に捉えるためにも、必ず片目ずつ見え方を確認することが大切です。また、サプリメントをとる紫外線避ける等の、最近話題になるアンチエイジングも眼の病気の予防に効果的と言われています。

常日頃から自身の見え方に変化がないかをチェックする事に加えて、定期的な検診も受けて頂き、生涯現役の視力を維持できるようにしましょう。



## 高齢者が、自分らしく安心して

### 生活するために

#### 福祉国家デンマークの生活に学ぶ



同朋大学 社会福祉学部  
社会福祉学科  
くみ 汲田 千賀子

高負担高福祉といわれる福祉国家デンマークは、幸福度が高いといわれています。国民の幸福度が高い理由の一つに、教育・医療・福祉(保育・介護などを含む)の保障が整っていることが挙げられるでしょう。つまり「幸福度が高い」とは、「不安が少ない」ということなのです。今日は、その中でも高齢期の生活に焦点を当ててお話をしたいと思います。デンマークでは、1988年に施設の新規設立の凍結をしました。人が生活するのに必要な広さや設えを第一に考え、すべては「住宅」という定義に基づいて作り替えられました。家族の人数や自分の身体の状態に応じ

# 茨木市内における 認知症サポーター養成講座の 取り組み

茨木市認知症地域支援推進員(介護系)  
寺川 真由子

認知症の人やご家族が住み慣れた地域で安心して生活を続けていくためには、必要なサービスを利用するだけでなく地域社会でのサポート体制が重要です。

認知症サポーター養成講座とは全国各地で行われている活動であり、認知症を他人事ではなく社会全体の問題としてとらえ、生活者全員が認知症について正しく理解し、対応について知ることが目的です。

茨木市では認知症サポーター養成講座の受講者数が、平成30年12月末時点で19,459人となりました。開催の申込をしてくださる方々は、自治会、老人クラブ、病院、薬局、介護保険事業所、図書館、消防署、スーパー、生命保険会社等、多岐に渡っています。

また、大学生、高校生の他、中学生、小学生の次世代を担う世代に対しても正しい知識を身につ



けてもらい、ニュース等で認知症問題が取り上げられることが決して遠い未来のことではなく、地域の中の身近な現状であるとの認識をもってもらいたいと思います。

認知症サポーター養成講座を受けた人を『認知症サポーター』と呼びます。認知症



「認知症の人を応援します」という意志を示す「目印」となるオレンジリングが渡されます。認知症の人と介護されているご家族にとっては安心の証となり、介護されているご家族からは「オレンジリングを見ると見守ってもらえているようでとても安心します」と聞きます。また、ある若年性認知症のご本人とご家族は「何が一番うれしかったか？」の質問に、「友人や地域の方が認知症になる前と同じように接してくれることが何より嬉しかった!」と話されていました。

サポーターは、認知症に関する正しい知識と理解をもち、地域で認知症の人や介護者等に対してできる範囲で手助けする「応援者」です。そして、認知症サポーターには「認知症の人を



特別なことではなくても自分達ができる「二つの行動」が当事者の方々を勇気付けたり、生きる力を与えてくれたりします。認知症になっても、安心して暮らせる地域となるよう『みんながやさしい街いばらき』を目指してまいります。